

# いしかわ まちづくりView

No. 18



## 目次

- 災害に強いまちづくりをめざす  
～金沢市の取り組みについて～ ..... 1・2・3
- あのまち、このまち“まちづくりめぐり”  
～能登空港開港～ ..... 4・5
- ～山中温泉都市計画道路～ ..... 6
- まちづくりの動き  
パリアフリー推進アドバイザーの派遣 松任市中心商店街 ... 7
- センターだより ..... 8

財団法人いしかわまちづくりセンター

## 特集 災害に強いまちづくりをめざす

### 金沢市の取り組みについて

平成7年1月に起きた「阪神・淡路大震災」は、まだ皆さんの記憶に新しい出来事ではないでしょうか。戦後最悪の極めて深刻な被害をもたらしたこの大震災から、私たちは多くの教訓を得ました。特に、大地震に備えて普段から防災都市づくり（とりわけ木造密集市街地の改善）を進めていく重要性をあらためて教えてくれました。

その教訓を踏まえて、金沢市では都市の防災性を向上させ、安心で安全なまちづくりを進めるための取り組みを行っています。

今回は、その内容や活動の一部についてご紹介します。

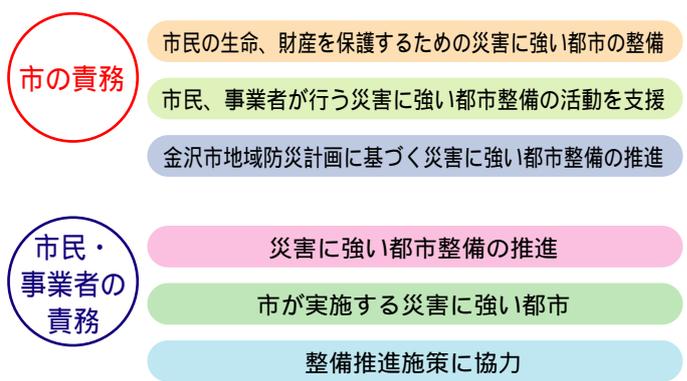
### 市民の生命、財産を災害からまもる

金沢市における災害に強い都市整備の推進に関する条例  
略称：防災都市整備条例



金沢の個性ある歴史を受け継ぐ伝統環境との調和を保ちながら、災害の防止と被害の拡大を防ぐために、みんなが協力して施設の整備を推進する必要があります。

まちのあちこちに残る文化遺産や、我々ひとり一人のかけがえない命、家族、財産をしっかりと守り、将来にわたって安心して生活できる、安全な「まちづくり」をめざします。



## 都市防災総合推進事業

金沢市では平成11年度から、国土交通省が所管する「都市防災総合推進事業」に基づき、災害危険度判定調査、住民によるまちづくり活動支援等を行い、災害に強い街づくりを推進しています。

「都市防災総合推進事業」とは...

### 【目的】

密集市街地に代表される防災上危険な市街地における総合的な防災性の向上

### 【事業内容】

- 地震等の災害に対する危険性を総合的に判断する災害危険度判定調査
- 住民等の主体的なまちづくり活動に対する支援
- 地区内の道路・公園等の整備
- 避難地・避難路周辺の建築物の不燃化を促進

### 【対象地域】

三大都市圏の既成市街地等、政令指定都市、大規模地震発生の可能性の高い地域、県庁所在地等



### 災害危険度判定調査

市街化区域（既に市街地を形成している区域及び概ね10年以内に優先的かつ計画的に市街化を図るべき区域）に指定されている区域を対象に、地域ごとに災害に対する危険性を調査したものです。

ある地域が金沢市全体の中でどれくらい危険な状態にあるのかを住民の皆さんに理解していただくとともに、今後の対策を考える手掛かりとするものです。



ワークショップでの話し合い（金石西地区）

### 住民によるまちづくり活動支援

「災害危険度判定調査」によって重点的に対策を検討すべき地区と位置づけられた地区のうち、「金石西地

### 地域の特性

河川・用水  
斜面緑地  
消防分団活動

### 行政の役割

道路の整備  
避難施設の整備  
防災計画の作成

### 連携・協調

### 市民の役割

防災意識の向上  
地域コミュニティの確保  
住宅等の耐震診断

### 企業の役割

耐震、不燃化の促進  
防災組織の編成  
従業員の防災教育

## 災害に強いまち

被害拡大の予防  
迅速な避難、支援体制  
被害の軽減

区」と「幸町菊川地区」において、住民の皆さんと行政とが協力して災害に強いまちづくりを考えていくためのワークショップを開催しました。

ワークショップでは、金沢大学工学部 北浦教授を招いての講演を通じ、地震災害に対する理解を深めた上で、



タウンウォッチングの風景（幸町菊川地区）

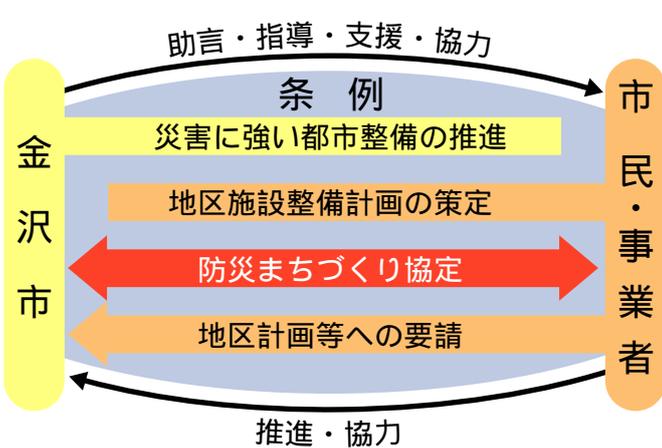
タウンウォッチング（地区の点検）を実施。その地区において防災上どのような問題があるか、どのように改善していくべきかを住民の皆さんとファシリテーター（意見のまとめ役）そして行政が一体となって話し合い、災害に強いまちづくりに向けての計画を検討しました。

**ワークショップとは**  
参加者が共通の目標に向けて、意見を出し合い、意見の違いを明確にした上で、お互いに現実可能な対案を出し合って共通の目標達成のためにどのようにしていくか、創造的な議論や作業をする場。

**防災都市整備条例**  
金沢市では市民の生命、財産を災害から守るため平成15年度に「金沢市における災害に強い都市整備の推進に関する条例」（防災都市整備条例）を策定しました。この条例は、様々な建物の安全確保、防災施設の整

備などと共に、市民による自主的な災害に強いまちづくりの支援もしています。

**市民による災害に強いまちづくり支援**  
地区施設整備計画の策定  
災害に強い都市整備を推進するために対象区域、目標年次、整備目標、整備方針等を定め地区施設整備計画を策定することができます。  
防災まちづくり協定  
地区施設整備計画を策定したときは、防災まちづくり協定を金沢市と結ぶことができます。  
地区計画等への要請  
防災まちづくり協定を結び、地区計画等として、都市計画に定めるよう金沢市に要請することができます。



**さいごに...**  
阪神・淡路大震災では、日常的に培われたコミュニティが避難や救助、さらには震災後の復旧に大きく貢献しました。このことは、地域住民同士の連携と協力がいかに大切かを表しています。  
災害後の取り組みだけではなく、今回ご紹介した金沢市の活動のような、事前の対策においても住民のみなさんの協力が必要です。  
「災害に強いまちづくり」を実現するためには、地域住民同士の連携と協力、そして地域と行政との連携と協力が不可欠なのです。

能登空港

「～能登空港開港！能登のまちづくり見にきまっし！～」

はじめに

平成15年7月7日に、石川県第2の空港として、「能登空港」が開港しました。

今回は、能登空港の特徴と、現在の能登地方における石川県独自のまちづくりをご紹介します。



図 1 能登空港位置図

能登空港

1) 空港前広場

ターミナルビル前に、たまりの空間の確保と景観向上のための十分な広さの「空港前広場」を設置しています。そこでは、交通結節点機能、交流機能、景観機能、環境負荷への配慮などの広場機能について検討し、たまり空間の確保と景観性の向上を図り、十分な広さとしています。

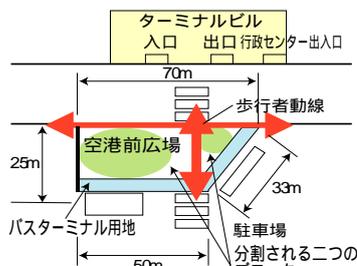


図 2 空港前広場の機能図

(図 2)

また、能登半島の祭りの主役である「能登キリコ」をキリコモニュメントという形にして、空港ターミナル地区のランドマークとして設置しました。



写真 1 キリコモニュメント (新緑色)

2) モニュメント

そしてターミナルビル前には、ビルの威圧感を緩和し、観光客や空港施設利用者を出迎えるエントランス空間として、能登らしさをシンボライズさせたモニュメント「ゆめのと」を設置しました。

このモニュメントは、地元作家であり金沢美術工芸大学の池上奨氏による石彫刻で、ひらがなの「のと」の持つ優しいイメージを表現しています。



写真 2 「ゆめのと」モニュメント

3) その他

ターミナルビルの色調は、森の中の空港をイメージして、全体的に緑色を基調色としているのが特徴です。

空港には毎日多数の人々が訪れ、観光地となっています。特に航空機の離発着時には、ターミナルビル内の見学者デッキや開港日にオープンした展望広場に多くの人々が見学しています。さらに、8月には道の駅「能登空港」としても認定されました。

能登の玄関口として、人、もの、情報の交流拠点として、能登空港は大きな役割を果たしています。



写真 3 ターミナルビル全景

### 能登地方のまちづくり

現在石川県では、中心市街地の活性化及び都心部の再生を実現化するため、市を対象とした「都市ルネッサンス石川・都心軸整備事業」を平成8年度から、及び町を対象とした「街なか再生・目抜き通り整備事業」を平成10年度から県の独自施策として行っています。

そのうち、能登地方におけるまちづくりとして、珠洲市、輪島市、七尾市、能都町の4地区をご紹介します。



図 3 事業箇所位置図

#### 1) 珠洲市 春日通り線 (珠洲市役所～飯田港)

飯田港と春日神社を結ぶ通りを、新たな市街地活性化軸と位置づけ、平成1年に春日通り線として都市計画決定を行いました。新たな交流を演出する祭り空間の創出を図るため、春日神社の参道をイメージした片側7mの広幅員歩道の整備を行うとともに、地元協議会が策定した「じんの燈・春日通りまちづくり協定書」に基づいた、灯りが似合う伝統と賑わいのある街並み形成を目的としています。

#### 2) 輪島市 河井町横地線 (輪島駅前～国道249号)

輪島駅と朝市通りを結ぶ河井町横地線を活性化軸と位置づけ、賑わいの再生と市街地の活性化を図っています。

現在店舗等の建て替え等が進み、新しい街並みが形成されつつあります。



写真 4 「輪風のまちづくり」をテーマにした街並み (輪島市)

#### 3) 七尾市 府中七尾駅線 (槍物町～府中緑地)

七尾駅と七尾港を結ぶ府中七尾駅線をシンボルロードとして位置づけ、平行して流れる御祓川の修景整備と一体的に整備することにより、拠点性の高い都心軸空間の形成を目的としています。

「明るい和風の港町」をテーマにした街並みを形成するために地区計画を定め、景観の統一を図るとともに、TMO事業等とも連携し、各種の活性化への取り組みを行っています。

#### 4) 能都町 新町通り線 (川原町～宇出津新町)

旧国道沿いの中心商店街の衰退に歯止めをかけ、商店街本来の賑わい再生と市街地の活性化を目的とし、地元協議会が策定した「彌榮(いやさか)協定書」に基づいた共有空間を持った街並みの形成を図っています。

新町通り沿道の建物は、間口が狭く奥行の長い長屋が建ち並んでいることを生かし、個店どうしをつなぐなどの回遊性のある商店街形成を目指しています。



写真 5 「ねまり長屋のまちづくり」をテーマにした街並み (能都町)

### おわりに

このように現在能登半島の各市町の街並みは大きく変わろうとしています。また、能登空港の開設により、東京～能登飛行時間は約1時間とアクセスもぐんと向上しました。

これを機会に、みなさんも能登のまちづくり、ぜひ見に来まし！(きませんか！)



能登空港マスコットキャラクター  
スカイのっぴー

山中温泉

～歴史と文化に出会えるまち～都市計画道路 温泉中央南線

はじめに

県下の都市計画区域を有する18町を対象に、空洞化が進行している中心市街地活性化対策として、文化・商工・観光政策と一体となって、中心市街地の都市計画道路を沿線地域も含めて景観に配慮し、賑わい・活性化を図ることを目的として、『街なか再生・目抜き通り整備事業』を実施しています。

都市計画道路温泉中央南線（愛称：南町ゆげ街道）は、山中温泉街の中心を縦貫する山中町随一の目抜き通りであるとともに、こおろぎ橋～鶴仙溪遊歩道～あやとり橋～総湯を結ぶ観光周遊ルートでもあることから、温泉街の歩行者空間の確保と賑わいの創出を図るため、平成9年度より事業に着手しました。



新しく生まれ変わった「温泉中央南線」



1店舗2業種を行っている店舗

オープニングセレモニー

今年の11月9日に都市計画道路温泉中央南線のオープニングセレモニーが行われました。

獅子舞やちんどん演奏等のアトラクションが行われ、たくさんの人々が新しく生まれ変わった当路線の散策を楽しみました。

住民と一体となったまちづくり

地元住民により協議会が結成され、まちづくりの全般にわたり「みち・まち・賑わい」の基本計画を策定し、まちづくり計画をまとめ上げました。

道路の整備については、電線類を地中化し、茶系の車道舗装や石張りの歩道とするなど、情緒豊かな温泉街にふさわしい街並みと調和するよう工夫されています。

また、協議会では、温泉街の活性化を図るため温泉情緒を演出した街並みが形成されるよう「南町ゆげ街道景観形成基準」も策定しており、これにより広々とした歩行空間確保のための1m以上のセットバックや屋根の形状・色彩、外壁の材質・色彩、緑化などの建築様式の統一を図っています。

さらに地元商店街においては、街路の整備に合わせて、温泉客の散策を誘導するように1店舗2業種などのユニークな店舗づくりに取り組むなど、地元と一体となったまちづくりにより、温泉街の活性化が進んでいます。



オープニングセレモニー

## バリアフリー推進アドバイザーの派遣《松任市中心商店街》

### バリアフリー推進アドバイザー派遣制度とは

市民活動団体や市町村のまちづくりに対する意識の高揚や自主的なまちづくりを推進するために、要請があれば、建築士、まちづくり専門家、作業療法士等の福祉関係者そして肢体、視覚、聴覚等の障害のある方々で構成される「バリアフリー推進アドバイザー」を派遣し、建築物や街全体をチェックします。

また、市民活動団体等がバリアフリーの知識を向上させるために、協議会や勉強会等の講師を要請してきた場合であっても派遣します。

その際、効果が大きいと県が認めるものについては、派遣経費を県が負担する制度です。

### 過去の派遣先について

過去にバリアフリー推進アドバイザーの派遣をしたところは、輪島市、山中町、羽咋市そして松任市の4市町6カ所です。

そのうち松任市では、地元商店街をはじめ、一般の市民のみなさんが集まり、勉強会をおこなった後、商店街を中心に、図書館、公園、街路などの駅周辺施設のバリアフリーチェックを3つの班にわかれておこないました。バリアフリーチェックの結果は、専門家を交えて検討し、今後のまちづくりに役立つよう、意見をとりまとめました。



アドバイザーによるバリアフリーチェック  
(千代尼通り商店街)



市民が集まっての勉強会（プラスあさがお）



専門家を交えての検討会（プラスあさがお）

【連絡先】石川県土木部建築住宅課

TEL:076-225-1777 FAX:076-225-1779

# センターだより

将来を担う子どもたちが、まちづくりの意義や必要性を学習し、まちづくりを身近に体験することには、大きな意味を持っています。当センターで今回開催したイベントをご紹介します。

今年度より、当センターでは住民主体のまちづくりを応援する一環として、小松市粟津温泉のまちづくりを考える協議会である「粟津湯の里塾」を、小松市と協力して支援することになりました。

## 珠洲市高校生のまちなか探検 (H15.8.20~ 26)

珠洲市のまちづくり団体「NPOベイエリア推進協議会」と当センターの共催により、珠洲市にある高校生9名が、珠洲市のいいところ、悪いところを再発見するために、携帯電話のカメラを利用して市内を探検しました。



珠洲市内写真撮影の様子



NPOによる説明の様子

NPOより今回の趣旨の説明を受けた後、カメラ付携帯の使用方の説明を受けました。

その後、高校生達は8月20日～26日に渡って市内を探検し、市内の気になる所を撮影しました。

そして最終日にその意見をまとめ、珠洲市のPR広告として発表しました。

故郷の魅力を改めて再確認し、郷土愛を深めるいいきっかけとなったのではないのでしょうか。



発表の様子

## 粟津 湯の里塾 (H15.7.8,H15.9.2)

この塾では地区の活性化を図るため粟津町の地元旅館・住民が主体となり、魅力的なまちなみ景観を創造し、にぎわいのあるまちづくりを実現することを目的としています。



H15.7.8 準備会の様子

この塾では、ソフト・ハードのまちづくりに向けた活性化方策とあわせ、粟津温泉のグランドデザインとなる整備方針の勉強・研究を行う予定です。



H15.9.2 第1回湯の里塾の様子

今後の塾内で話し合われたこと、決定したことについては随時「粟津湯の里ニュース」として関係町内にて回覧をする予定です。

## 編 / 集 / 後 / 記

今回は、都市防災を取り上げてみました。昨今多発する地震、カリフォルニアでの大規模な森林火災等、日本のみならず世界で今防災の必要性が問われています。

みなさんも、今一度身の回りの防災計画、避難場所などを確認してみてはいかがでしょうか。

編集協力：石川県都市計画課  
発行：(財)いしかわまちづくりセンター  
TEL 076-225-1905 FAX 076-225-1943  
HP: [www.pref.ishikawa.jp/machicen/index.htm](http://www.pref.ishikawa.jp/machicen/index.htm)  
発行日：平成 15年 12月